

地域に広がるバリアフリーの新たな形

バリアフリー化推進功労者大臣表彰

広島 広島市 マツダスタジアム



マツダスタジアムの大きな特徴は、1階観客席最後部に、幅が広く段差のないコンコースがあり球場を一周する形で配されていること。広島駅からの歩行者用スロープはそのコンコースに繋がり、球場内も駅から車いす利用者や高齢者の移動が至便。さらに最大300席分の車いす用観戦スペース、1000席分の難聴者用補聴設備も整備されるなど、幅広い層へのスポーツ観戦への参加拡大に取り組んでいる。

京都 音羽山 清水寺



多くの参拝客が訪れる本堂の横や、「音羽の滝」階段部をスロープ化。特に「音羽の滝」周辺は参拝路で最も低い場所にあり、階段が多かった。大規模な路面の切り下げをし、風致を損ねることなくスロープにし、境内を段差なく一周できる参拝ルートを作成させた。そのほか、参拝路に段差のない多機能トイレも3つ設置され、手で触れてお参りできる「ふれ愛観音」も奥の院に設置。視覚障がいのある方でも参拝を実感いただける配慮がなされている。

優れた取り組みを奨励

バリアフリーへの取り組みは、地域の状況に合わせて工夫しながら日本各地で進められている。国土交通省では、平成18年12月施行の「バリアフリー法」をふまえて、公共交通機関、道路、建築物などの総合的・一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民の方々への意識啓発にも努めている。その一環として、各地域での優れた取り組みに対する表彰を行っている。これが「バリアフリー化推進功労者大臣表彰」である。

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、顕著な功績、功労があった個人・団体を表彰し、優れた取り組みについて広く普及・奨励することを目的としている。平成22年度で4回目となり、毎年4〜6件が選ばれている。現在まで表彰された主な取組みには、次のようなものがある。

京都府の音羽山清水寺は「重要文化財を活かした寺社地のバリアフリー化」(第4回)で受賞。こちらは日本を代表する観光地だが、国宝・重要

第4回(平成22年度)の受賞者一覧



- 北海道空港株式会社
「障がい当事者等の参画による空港のバリアフリー化」
- 東京国際空港ターミナル株式会社・京浜急行電鉄株式会社・東京モノレール株式会社
「空港ビルと駅が一体となった先導的なバリアフリー化」
- 株式会社みずほ銀行
「銀行店舗における全国的なバリアフリー化」
- 音羽山 清水寺
「重要文化財を活かした寺社地のバリアフリー化」
- 北大阪急行電鉄株式会社・吹田市・豊中市
「鉄道事業者と複数自治体の連携による桃山駅及びその周辺のバリアフリー化」

文化財として改修上の制約が多く、高低差の大きい傾斜地に境内がある。そんな条件下にありながら、車いす用舗装、参拝路のスロープ改修、段差のない境内一周ルートの整備など、文化財の保護と景観保全を考慮しながらバリアフリー化したことが、大きく評価された。

また、広島市は「新設野球場におけるバリアフリー化」(第3回)で受賞。平成21年に開設されたマツダスタジアム(広島市民球場)は、設計段階から障がい者団体や市民の意見を反映させ、建設を実施。広島駅に通じる歩道と球場内コンコースを直結する歩行者用スロープを設けるなど、誰もが利用しやすい球場へと生まれ変わった点を評価している。

国土交通省では、これからもこのような優れた取り組みを顕彰し、地域に広がるバリアフリーの新たな形を奨励していく。